

## 稚内市議会政務活動費収支報告書

平成31年4月3日

稚内市議会議長 中井 淳之助 様

議員名 横澤 輝樹

次のとおり平成30年度稚内市議会政務活動費の収支報告書を提出します。

1 収 入

政務活動費 360,000 円

2 支 出

円

科 目	金 額	備 考
調査研究費	円	
研 修 費	182,628 円	地方議員研究会
広 報 費	円	
広 聴 費	円	
要請・陳情活動費	円	
会 議 費	円	
資料作成費	円	
資料購入費	円	
人 件 費	円	
事務所費	円	
その他の経費	円	
合 計	182,628 円	

3 残 額 177,372 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

# 活動内容報告書

平成30年10月25日

稚内市議会議員

横澤 輝樹



活動等の名称	地方議員研究会
期 間	平成30年10月15日 ～ 平成30年10月19日
実施場所	東京都 早稲田大学 大隈記念タワー
実施経費	<u>182,628 円</u> <input type="checkbox"/> 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 研修費 <input type="checkbox"/> 広報費 <input type="checkbox"/> 広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費 <input type="checkbox"/> 会議費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 人件費 <input type="checkbox"/> 事務所費 <input type="checkbox"/> その他
活動等の概要	○自然エネルギーを活用した地域づくり ○自治体施設マネジメント ○小さな地域の経済循環構築の実例 ○人口減少社会における発想の転換 ～横須賀市の事例から～
備 考	

## 地方議員研究会

旅行期間／平成 30 年 10 月 15 日～平成 30 年 10 月 19 日

### 旅行行程表

月 日	行 程	滞 在 地
10/15	稚内市 → 羽田空港 → 浜松町駅 → 東京駅	東京都
10/16	早稲田大学(地方議員研究会)	東京都
10/17	早稲田大学(地方議員研究会)	東京都
10/18	早稲田大学(地方議員研究会)	東京都
10/19	東京駅 → 浜松町駅 → 羽田空港 → 稚内市	

### 旅費計算表

項 目	内 訳	金 額
航空運賃	稚内空港 ⇄ 羽田空港	50,480
鉄道	10/15、10/19 東京駅 ⇄ 浜松町駅 320 円(片道 160 円×2)	320
モノレール	10/15、10/19 羽田空港 ⇄ 浜松町駅 980 円(片道 490 円×2)	980
バス	10/15、10/19 稚内 ⇄ 稚内空港 1,200 円(片道 600 円×2)	1,200
日 当	(道外)@3,000 円×5 日	15,000
宿泊費	(道外パックなし)@13,500 円×4 泊	54,000
合 計		121,980

研修費:60,000 円

振込手数料:648 円





# 領 収 証

A 002645

三好 様

30年9月27日

種 別	金 額
現 金	✓
小 切 手	
銀 行 振 込	
相 殺	

450480

但し航空券代



## 北都観光株式

札幌本社 札幌市中央4丁目5番29号 番(0162)

取極寄印

# 領 収 証

横澤 輝樹 様

30 年 10 月 16 日

★

¥60,000

但 10/16.17「早稲田大学×地方議員研究会 共催セミナー」  
4講座研修会受講料として

上記正に領収いたしました

一般社団法人地方議員研究会

〒532-0004

大阪市淀川区西宮原2丁目6-16-639

TEL 06 (7878) 6297



## ご利用控 北海道銀行

いつも通銀をご利用いただきありがとうございます。  
お取引内容をご確認のうえ、お持ち帰りください。

(お取引種別)	(振替)	(振替種別)	(お取引日)
お振込	6221095	30-09-26	
(銀行コード)	(口座番号)	(科目・口座番号)	(取扱店番)
			801
00600000000010000000000000 (お取引種別) (ご利用手続) (お取引金額)		09:14 ¥648 ¥60,000	
(おつり)		*** (加納印) ***	
¥352			

手数料のうち振込手数料 ¥648  
000013

楽天銀行  
第二営業支店

ツセ)子ホウキ"インクンキウカイ 様

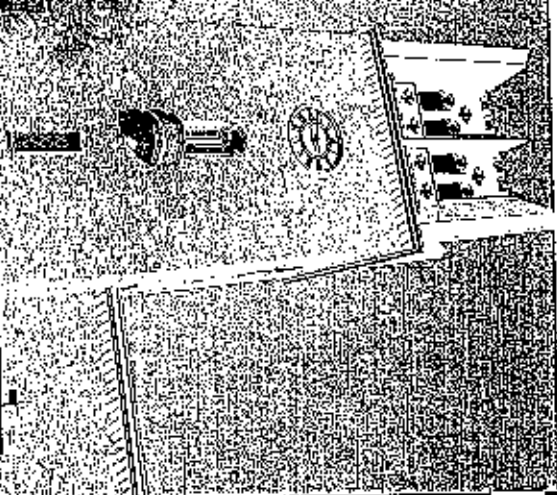
アツカナイツキ"ヨコサ"ツコダキ 様

電話番号

※当りあわせてご覧ください。

06653 2211

地方創生、SDGsを含みリニューアル



10月16日(火) 11月6日(火)

10:00~12:30 講師：岡田久典

自然エネルギーを活用した地域づくり

・自然エネルギーを活用したまちづくり  
・自然エネルギー(太陽光発電)モデル事例と対策 概要  
・議会質問の参考になる全国の事例

14:00~16:30 講師：日高 正人

自治体施設マネジメント  
(財政と住民満足の高立)

・議会質問の参考になる全国の事例  
・自治体施設マネジメントのチェックポイント  
・ことも対策への応用

10月17日(水) 11月7日(水)

10:00~12:30 講師：永井 祐二

小さな地域の経済循環構築の実例

・自然エネルギー活用・風山保全・空家対策・地域ポテンシャルを最大限に活用  
・全国の好事例 失敗例などを具体的な取り組みを紹介  
・この自治体でも取り組める小さな経済循環構築のポイント

14:00~16:30 講師：岡田久典・永井 祐二

SDGs、大学の上手な使い方

・SDGsの基礎知識、SDGsと自治体・地域づくり  
・まちづくりのための大学の上手な使い方  
・議会質問の参考になる全国の事例

10月19日(金) 11月9日(金)

10:00~12:30 講師：井原 雄人

立地適正化計画と  
地域公共交通網形成計画の整合

・立地適正化計画と地域公共交通網形成計画の概要  
・コンパクトシティづくりの進め方  
・整合性を図るために確認すべきポイント

14:00~16:30 講師：井原 雄人

地域公共交通による  
新しいコミュニティづくり

・地域公共交通を支えたまちづくりの実例  
・地域公共交通が生まれる新しい価値  
・Within one mile(1キロ以内)のコミュニティ構築

10月18日(木) 11月8日(木)

10:00~12:30 講師：菅田 耀人

人口減少社会における発想の転換  
～横須賀市の事例から～

・里山資本主義的な発想の転換  
・観光・定住における発想の転換事例  
・医療と福祉の連携における発想の転換事例

14:00~16:30 講師：岡田久典

地方創生、空家対策

・地方創生の成功と失敗を分けるポイント  
・空家対策の現状、空家・空地の有効利用  
・議会質問で使える地方創生・空家対策の全国事例

10月19日(金) 11月9日(金)

10:00~12:30 講師：井原 雄人

立地適正化計画と  
地域公共交通網形成計画の整合

・立地適正化計画と地域公共交通網形成計画の概要  
・コンパクトシティづくりの進め方  
・整合性を図るために確認すべきポイント

14:00~16:30 講師：井原 雄人

地域公共交通による  
新しいコミュニティづくり

・地域公共交通を支えたまちづくりの実例  
・地域公共交通が生まれる新しい価値  
・Within one mile(1キロ以内)のコミュニティ構築

10月18日(木) 11月8日(木)

10:00~12:30 講師：菅田 耀人

人口減少社会における発想の転換  
～横須賀市の事例から～

・里山資本主義的な発想の転換  
・観光・定住における発想の転換事例  
・医療と福祉の連携における発想の転換事例

14:00~16:30 講師：岡田久典

地方創生、空家対策

・地方創生の成功と失敗を分けるポイント  
・空家対策の現状、空家・空地の有効利用  
・議会質問で使える地方創生・空家対策の全国事例

早稲田大学  
環境総合研究センター



地方議員研究会  
共催セミナー

in早稲田大学 大隈記念タワー

岡田 久典



早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員  
早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員  
早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員

日高 正人



早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員  
早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員

永井 祐二



早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員  
早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員

菅田 耀人



早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員  
早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員

井原 雄人



早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員  
早稲田大学環境総合研究センター  
研究員  
上野町院員

# お申込みは FAX または メールにて

お申込み後、事務局から折り返し「受講確認書」を一両日中にFAXまたはメールにて送付します。  
「受講確認書」に従って、事前に口座へお振込みください。

**FAX申込書**

送信先



**FAX.06-7878-6308**



下記申込書に明記の上、参加される講座のチェックボックスへ  チェック後ご送信ください。

お名前	(フリガナ) ヨコヅキ ユウキ 横澤 輝積	貴議会名	稚内市議会 (3期目)
電話番号	[REDACTED]	FAX番号	(0112) 23 -
E-mail	[REDACTED]		
領収証宛名	ご本人様名・その他( )		
当日不参加の場合はチェックください	<input type="checkbox"/> 当日不参加(資料、USB音声データ、領収証 郵送希望) <small>音声データの無断転送等はしないことに同意して申込みます</small>		

10月16日(火)	10:00~12:30 <input checked="" type="checkbox"/> 自然エネルギーを活用した地域づくり	14:00~16:30 <input checked="" type="checkbox"/> 自治体施設マネジメント(財政と住民満足の見直し)
10月17日(水)	10:00~12:30 <input checked="" type="checkbox"/> 小さな地域の経済循環構築の実例	14:00~16:30 <input type="checkbox"/> SDGs、大学の上手な使い方
10月18日(木)	10:00~12:30 <input checked="" type="checkbox"/> 人口減少社会における発想の転換-横須賀市の事例から	14:00~16:30 <input type="checkbox"/> 地方創生、空家対策
10月19日(金)	10:00~12:30 <input type="checkbox"/> 立地適正化計画と地域公共交通網形成計画の整合	14:00~16:30 <input type="checkbox"/> 地域公共交通による新しいコミュニティづくり
11月6日(火)	10:00~12:30 <input type="checkbox"/> 自然エネルギーを活用した地域づくり	14:00~16:30 <input type="checkbox"/> 自治体施設マネジメント(財政と住民満足の見直し)
11月7日(水)	10:00~12:30 <input type="checkbox"/> 小さな地域の経済循環構築の実例	14:00~16:30 <input type="checkbox"/> SDGs、大学の上手な使い方
11月8日(木)	10:00~12:30 <input type="checkbox"/> 人口減少社会における発想の転換-横須賀市の事例から	14:00~16:30 <input type="checkbox"/> 地方創生、空家対策
11月9日(金)	10:00~12:30 <input type="checkbox"/> 立地適正化計画と地域公共交通網形成計画の整合	14:00~16:30 <input type="checkbox"/> 地域公共交通による新しいコミュニティづくり

メール申込先

**mail@chihogiken.jp**

**開催場所**

早稲田大学 早稲田キャンパス26号館  
大隈記念タワー 11階1102号室  
16講座  
同場所 東京都新宿区早稲田鶴巻516-1

**受講料**

1講座 15,000円(税込)  
受講料は「受講確認書」到着後に  
事前にお振込みをお願いします。  
※キャンセルは、7日前までにご連絡ください。

お問合せ・事務局

**地方議員研究会**

TEL 06-7878-6297

FAX 06-7878-6308

メール mail@chihogiken.jp

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目6-16-639



東京メトロ東西線 早稲田駅 2または3a出口より徒歩5分

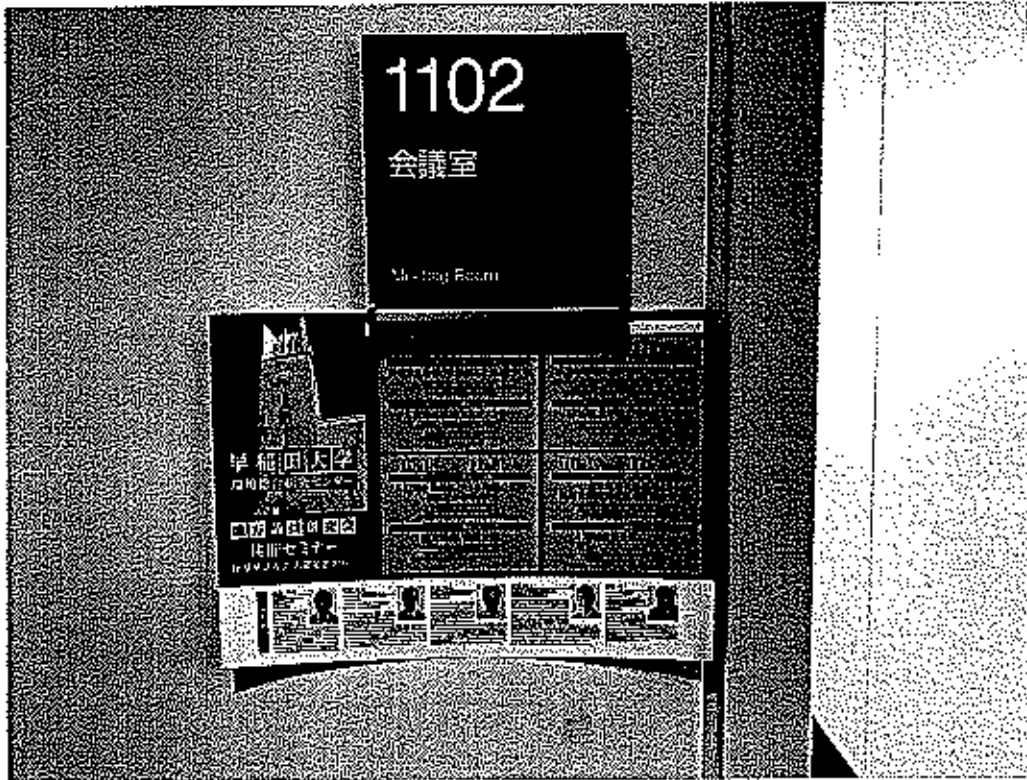
※当社類似名称を名乗る企業、団体から案内チラシが届くとの相談が寄せられておりますが、当社とは全く関係ございません。  
テーマ、チラシレイアウト等も同じ悪質な団体もございますので、お間違いないようによくご確認ください。

平成 30 年度 (2018 年度)

地方議員研究会

期間：平成 30 年 10 月 15 日～19 日

早稲田大学 大隈記念タワー





# 早稲田大学環境総合研究センターx地方議員研究会 共催セミナーin早稲田大学 大隈記念タワー

平成30年10月16日(火) 10:00-12:30

## 【自然エネルギーを活用した地域づくり】

講師:岡田 久典 (早稲田大学環境総合研究センター上級研究員)

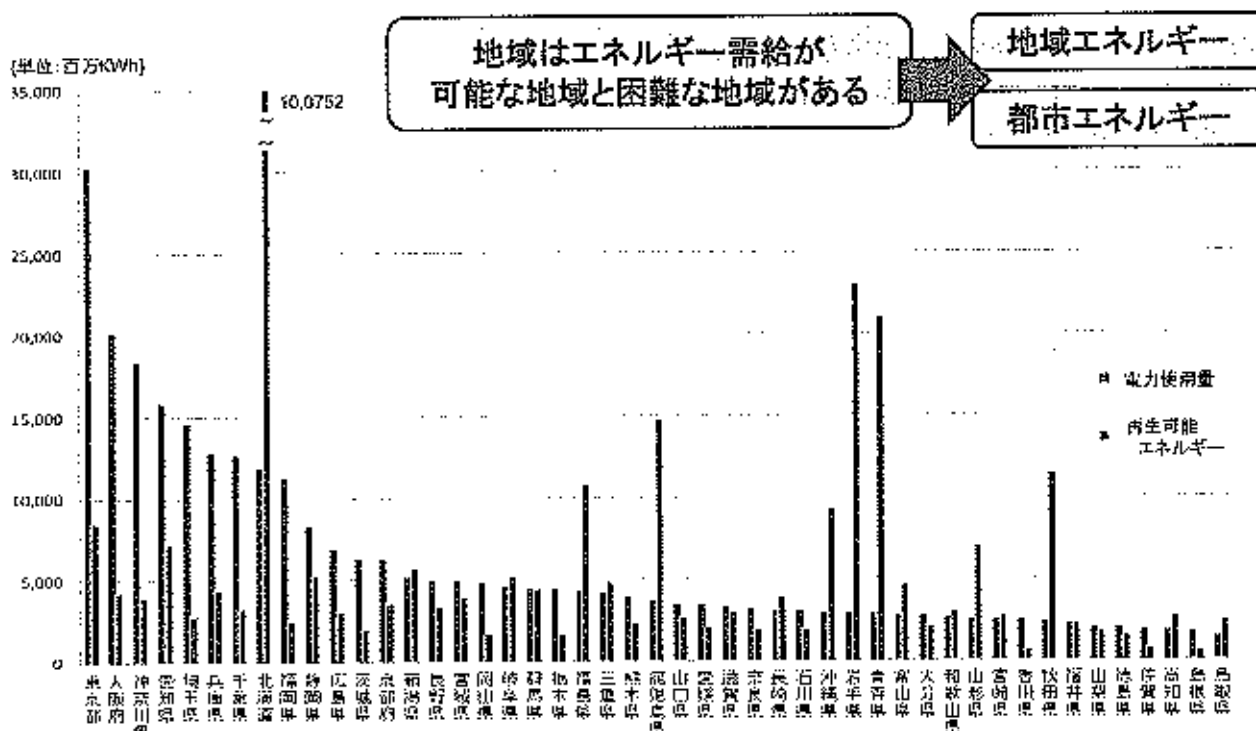
### 〔都道府県別 再生可能エネルギーポテンシャルと電力使用量の比較〕

電力使用量は東京都が約30,000(百万kw)で1位。大阪府、神奈川県、愛知県と続き、北海道は約12,000(百万kw)で8位。

しかし、再生可能エネルギーポテンシャルでは、約23,000(百万kw)で2位の岩手県を大きく引き離し、北海道が約100,000(百万kw)で1位となっている。

2018.10.16A自然エネルギーを活用した地域づくり.pdf

## 再生可能エネルギーポテンシャルと電力使用量の比較



出典: 環境省総合環境政策局環境計画課「平成23年版 環境統計集」より作成  
 出典: 総務省緑の分枝改革推進会議 第四分科会「再生可能エネルギー資源等の現存量等の調査についての統一的なガイドライン」  
 ※シナリオ①の数値を採用。ただし、風力は陸上のものだけとし、洋上はのぞく。

22/73

### [FITの問題点]

- ①再生可能エネルギー賦課金によって家計・企業の負担が増大。
- ②高値で売れる時にFITを申請し、安く買える時に設備を買おうとする業者による「空押しさえ」。
- ③収益がFIT頼りになるため、事業者側の経営努力や技術開発などによるコストダウンが進まない。

④FITによる負担(標準家庭の月額負担は585円(2016年))

### [再生可能エネルギーの普及への問題]

- ①送電網が新規事業者に開かれていない。
- ②再生可能エネルギーに適した土地がない。
- ③発電にコストがかかる。
- ④住民理解を得ることが難しい。

『ソーラーシェアリング』

太陽光パネルの下で農作物を育てる。

- ・農作物の選択、性能の良いパネルの設置がカギ。(キクラゲなど?)
- ・電気工作物なので周辺住居との付き合い方が大事。
- ・農業委員会との交渉が大事。

浜中町では、100戸余りの酪農家が太陽光発電設備を設置し、1戸あたり年間20万円程度の電力経費を削減。太陽光発電を活用して生産した生乳を「エコ牛乳」としてブランド化している。

バイオマスの利活用では、資源を調達して燃やすだけの単純な産業という認識ではダメ。

①ペレット

②発電

③余剰熱

森林マネジメント事業実施の副次効果

- ①木質バイオマスの利活用による石油エネルギーの代替。
- ②バイオマス資源を活用した新たな製品の開発。
- ③地域住民の参加と副収入の増加(地域コミュニティの活性化)
- ④関連事業による雇用の発生
- ⑤高齢者の参加による健康増進。
- ⑥森林等の管理による獣害対策への貢献
- ⑦森林等の保全による土砂災害防止、水源涵養。

【総括】

再生可能エネルギーの活用は、発電した電気を売電するだけでなく、どれだけの副次効果が見込めるかの検討と地域還元を考える必要があり、事業を進めるにあたっては住民の理解と協力が不可欠である。

10月16日(火) 14:00~16:30

【自治体施設マネジメント(財政と住民満足の両立)】

講師:日高 正人(早稲田大学環境総合研究センター招聘研究員)

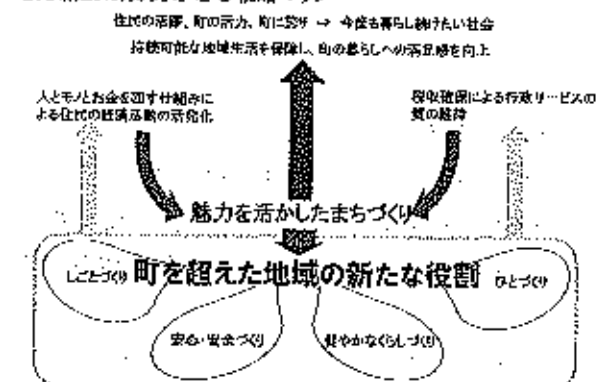
◆3-5年先の実現モデルを考える

- ①点ではなく、時間・面・空間など様々な物理的距離から移動並びに情報伝達距離(時間)での発想
- ②地域=自治体から、地域+地域の新しい枠組みでの発想
- ③リアルビジネスから、ネット+リアルビジネスでの発想

◆誰かがやるのではなく自らやることを考える

- ①第三者・評論家・コンサル的発想をしない
- ②できない理由を探さない

地方創生を成功させる戦略マップ





のではない。現在では水道部局が所有している風車があるが、それ以降、活用していく話は出ていない。地域にとって有意義な取り組みとするために、地域が一体となって取り組める活動にしていくことが重要であり、そのためにも、迷惑施設とならないように地域の現状を踏まえたルールづくりだけでなく、活性化のために推奨する枠組みを用意することが大事である。その手法の一つに「シュタットベルケ」があるということを学ばせていただいた。

10月18日(木) 10:00~12:30

【人口減少社会における発想の転換～横須賀市の事例から】

講師:吉田 雄人(早稲田大学環境総合研究センター招聘研究員、前横須賀市長)

「横須賀市民の評価」

市内に住み続けたい82.3%。居住満足度は高い。

「発想の転換の必要性」

▲街の良さが伝わっていない → 対外的な発信・ブランディングの必要性

▲減少した人口の消費分を来訪者で補えないか → 観光消費で確保することが必要

▲ハコモノに頼らない町おこしはできないか → 無いものねだりではなく、あるものを活用することが必要。

「里山資本主義」

①水・食料・燃料の(一部の)自給。(お金100%依存の脱却)

②物々交換。(お金だけに頼るのではなく、何かを交換で入手できる)

③恩送り。(余ったら見返りを期待せず人にあげてしまい、あげた相手には自分以外の誰かへの恩送りを期待)

④お金は交換手段で、価値の物差しにしない。(人の価値は金銭換算できない「かけがえのなさ」)

⑤一人多役。(一人が多数の役割を果たす方が楽しいことが多い)

⑥小規模の利益。(今だけ、ここだけ、あなただけの価値)

【マネー資本主義と里山資本主義】

「動機」 マネー:ナンバーワン

里山:オンリーワン

「目標」 マネー:際限なく稼ぎ、貯め込む

里山:稼いでは回しバトンをつなぐ

「戦略」 マネー:他者から奪い取る。未来・次世代から搾取する。

里山:自給自足。循環・再生が可能な範囲で稼ぎ使う。

「手法」 マネー:等価交換、金融投資、自由競争、リスクの個人化。

里山:物々交換、実物投資、協働、リスクの社会化。

【横須賀市 転出超過数日本一からの挑戦】

基地の街→治安が悪い→住みにくそう

\*基地のイメージの払拭→失敗!

○発想の転換→基地を積極的にアピール(マイナスイメージをプラスに)

①よこすか海軍カレー

事業者部会加盟数:15→95事業者(6.3倍)

○大手も参入(ヤマザキ:よこすか海軍カレーパン、マルちゃん:ライスバーガー よこすか海軍カレー味など)

○よこすか海自(海上自衛隊)カレー

海上自衛隊横須賀地方総監部の協力により、市内のカレー店が護衛艦・潜水艦等のレシピを再現し、艦長が認定。市内の16店舗で23種類のよこすか海自カレーを提供。

②横須賀軍港めぐり

集客16万・経済効果7億円、雇用促進。

③横須賀ネイビーバーガー

米海軍横須賀基地周辺限定での認定(多数のファミレス等からのオファーも断る)

・横須賀でアメリカの雰囲気味わってもらう。  
海軍カレーとは違うブランド戦略→38万食突破

④米海軍基地開放イベント(春:ワシントンの桜、夏:花火、秋:米軍神輿)

→年間10万人以上の集客

⑤サブカルチャーへの取り組み

○ヨコスカサブカルチャー祭:記念艦三笠でのコスプレ撮影の許可など

⑥ドル街 横須賀(ドルが使える街)

海外旅行で余った外貨などを使えるように。

○集客数:軍港めぐり 前年比136%、記念艦三笠 前年比124%

○メディア露出 40件、広告換算総額 約2億2,700万円

○経済効果:期間中、1万ドルの利用があった店も。

⑦生きた英語を学べる街・・・定住促進

○海軍の学校と日本の学校の休みが違うので、お互いの休みの日に交流。

○横須賀市民限定。海軍大学で海外留学。単位も取れる。

### 生きた英語を学べるまち

1	市立高校外国人のアイデア・スピーチコンテスト	小・高
2	英語だけの世界 YOKOSUKA English World の横須賀イングリッシュキャンプ	小・高
3	米海軍横須賀基地と日本のハイスクールの姉妹校交流留学	高
4	横須賀ホームビジット	小・高 社会人
5	米海軍基地内 アメリカン大学への留学	大学 社会人

### 米海軍基地内 アメリカン大学への留学

大学・社会人

平成28年度 基地内留学 (ブリッジプログラム) 概要

- 1 開講期間 平成28年8月中旬～平成29年10月中旬
- 2 場 所 米海軍横須賀基地内教育センター
- 3 年間学費 1,400～5,000 US\$
- 4 応募方法 応募書類を横須賀市役所 国際交流課へ提出
- 5 実施スケジュール 7月1日 募集開始  
7月中旬 応募者に結果を通知  
8月上旬 基地内留学 開始



横須賀市民限定です!

発想の転換で「基地」を市民の資産に!

【在宅医療に見る医療と福祉の連携】

人生の最後をどこで過ごしたいかを市民アンケート

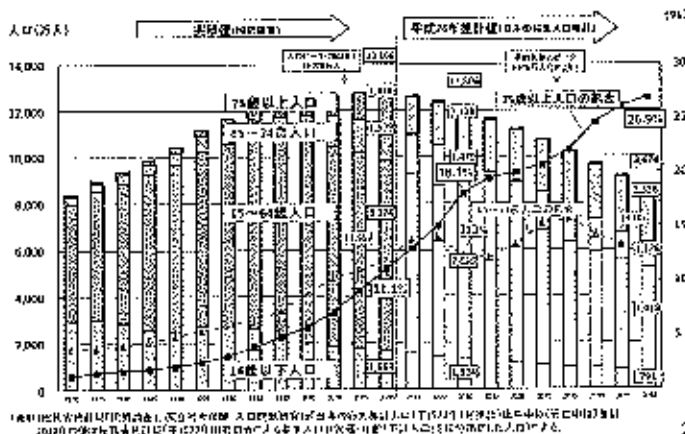
- ・自宅又は出来るだけ自宅療養(60.0%)
- ・医療機関(15.4%)
- ・老人ホームなどの施設(6.1%)

アンケートの結果から、見えたもの

- ①自分の想いと周囲のミスマッチ
- ②自宅で最後を迎えたい⇔家族は難しいと感じる
- ③延命治療は希望しない⇔家族はそれを知らない

\*在宅療養や看取りを希望する市民は多い  
→体制構築の必要性

全国的な75歳以上の高齢者数の増加 7/73



- 在宅療養連携会議の発足
- 市民に在宅療養を知らせる取り組み
  - ①シンポジウムの開催
  - ②出前トークの開催
  - ③広報よこすか特集号
  - ④市民便利帳、ホームページに掲載
  - ⑤各種研修会の開催(多職種合同研修会、医療・療養セミナーなど)

○開業医・病院の地域ネットワークづくり  
在宅医療ブロック会議、医師会に在宅医療センター連携拠点を設置

○啓発冊子の作成(在宅療養ガイドブック)

【新たに浮かび上がった課題】

- ①一人暮らし高齢者の増加(65歳以上の約13%が単身世帯)
- ②貧困世帯の増加(一人暮らし高齢者の約19%が生活保護受給者)
- ③無縁社会の広がり(引き取り手のないご遺体が年間60体  
→「没後の不安」(どんな葬儀をあげられるか?どこに埋葬されるのか?財産の処分は?・・・))

○エンディングプラン・サポート事業

- ①終活課題についての相談
- ②支援プランの策定と保管
- ③終活課題の解決に向けた連携・支援

【総括】

日本全国で起きている人口減少問題。その街によって理由があるが、街の問題を真摯に受け止め、どうすれば街の活性化につなげることができるのか?そのためには、街にないものをつくるのではなく、あるものをどう磨き上げ、宝としていくかが大事であり、その成功には危機感が鍵となる。民間企業、市長がどれだけ危機感を持っているか?その危機感が発想の転換を生み、イノベーションを起こすことにつながる。


横須賀は基地の街という負のイメージを払拭ではなく、プラスのイメージとして価値をつくりあげ活性化につなげて、結果を出していた。

「地方創生は、自分の自治体で出来ないのなら、他に出来る自治体はない。そのくらいの覚悟が必要。」という講師の言葉がとても重く、このくらいの気持ち、覚悟があったからこそイノベーションを起こすことができたのだと実感した。

また、福祉の問題に対しても市民の声を真摯に受け止め、今市民にとって必要なことを単に市の考えとして事業をつくるのではなく、多くの市民を巻き込み、話し合いを重ね、市民、行政、事業者がWIN・WINの関係を築けるようにまですたことに驚いたと同時にこれこそが本来の事業のあり方だと感じた。

稚内市はまだまだここまでの事業づくりはできていない。しかし、本気で地方創生を考えるならば必須であろう。

**多職種合同研修会から生まれた  
「よこすかエチケット集」**



175人の研修会参加者から出された意見を、17人のボランティアと6人の作業員が地道な活動で100名がまとめ上げ作成しました。

多くの職種、多くの人がかかわって完成したこの「エチケット集」は、成案物とともに作成プロセスそのものが人間的財産となりました。

この取り組みが評価され、第17回日本在宅医学会 ありがとう大会で顕彰賞を受賞しました。

横須賀市HPからダウンロードできます。  
「よこすかエチケット」で検索!

**WIN・WINの関係**

